

2001年3月26日

札幌市長 桂 信雄 様

(社) 北海道自然保護協会



市道砥山豊平川沿線 (八剣山地区) の着工見合わせを求める要望書

先般、札幌市の担当者からご説明いただいた砥山豊平川線 (八剣山地区) の環境影響について、検討いたしました。当該路線予定地の藻岩ダム左岸水際附近は、都市周辺に残された貴重な自然環境であり、環境影響調査が不十分であるばかりでなく、自然環境に与える影響が懸念されるので、当協会としては基本的に望ましくない道路計画と考えます。

この部分を通る自動車道路の建設は着工を見合わせ、少なくとも下記調査を行うとともに、路線変更の比較代替案の検討等が必要で、単に道路工学的な観点ばかりでなく、都市周辺の自然環境保全、市民の意向調査を含め、総合的な観点から再検討されるよう要望いたします。

1. 環境調査書における評価について

自然景観保護地区、保安林地区等を通る当該計画路線に関する環境調査 (1995 - 96年) は、環境アセスメントに準じ行われていますが、全く不十分な内容です。特に、「道路建設による影響」では、検討項目・検討方法の吟味や、代替案との比較などが全く行われずに「影響は少ない」と結論づけられていることは問題です。道路による生育地の分断、騒音・振動・排気ガス、道路面からの汚染物質の流入等、野生生物に対する長期影響、さらに景観変化まで合わせて検討しなければなりません。2001年に調査し評価の見直しが必要です。

2. 動物調査の問題点

動物調査に関しては、すでに野鳥の会、豊平川ウォッチャーズ等地元自然保護団体から問題点が指摘されています。現在、調査・観察中であり、これら団体の意見を十分尊重して下さい。当協会としては今までに得られた知見をもとに、以下に検討の要点を示します。

2-1 猛禽類の確認

1995年の「環境調査」では鳥類は21科45種が確認されていますが、猛禽類はトビ以外観測されていません。地元団体によれば、以前から多くの猛禽類の生息が確認されていたといいます。最近の観察結果では、トビのほかクマタカ・ハイタカ・オオタカ・ハヤブサ・チゴハヤブサ・オジロワシ・ハチクマ・オオコノハズク・コノハズクなど多くの猛禽類及び希少種クマガラが新たに確認されています。環境庁指針の主旨は、地元自然保護団体の確認情報を尊重すること、希少種の生息・営巣が行われる可能性のあるような自然度の高い状況を総合的に判断する必要があることを指摘しています。従って地元団体の調査結果を尊重し、当該地での環境改変は生物多様性保全に重大な影響があると判断すべきです。

2-2 水辺生息環境の保全

当該調査地は自然度の高い自然林と水域とが接しており、多様な生物の生息地として好適な環境にあります。このような自然は、開発の進んだ札幌周辺では、残り少ない貴重な

場所となっています。「環境調査」では、このような水辺生態系としての生物調査という観点が抜けており、単に計画路線に限ったの生物調査になっています。改めて魚族、昆虫類、両生類、爬虫類を含む水辺生態系における生息状況を調査する必要があります。

3. 植物調査の問題点

3-1 植物リストから見た調査地域の特異性

3-1-1 ヒロハハナヤスリは北海道では渡島・胆振・石狩・網走支庁及び利尻・礼文島に点々と隔離分布する植物地理学上特記される希少種で、出現個体数も少ない種です。2000年4月に公表された北海道レッドデータブックでも希少種とされており、この種の生息地は厳重に保護される必要があります。

3-1-2 ウチワドコロは東アジア系温帯性植物で、道内では後志と石狩にしか分布していない希少植物で、北海道レッドデータ種候補となっています。この植物の生息地は、低地自然林で沢沿いのやや湿地がかった場所で、札幌周辺では開発によって減少しているため保護を必要とする。

3-1-3 ミツデカエデ・ミツバウツギ・クサギは北海道東北部を北限とする温帯性植物で、札幌市では低地森林の開発が進み希少な種類となっています。札幌地域の希少種として特記される種です。

3-1-4 カラマツソウ・トウゲブキは高山草原構成種で、低標高地にある場合には、崖地・岩礫地など特殊な生育環境である場合が多いものです。標高の低い当該地に、これら特殊な種が見られることは貴重な事例であり、詳細な環境調査が必要です。特にトウゲブキが札幌の低地で見られた事は注目に値するので、調査地周辺の環境変化は避けなければなりません。

3-1-5 キリンソウ・エゾノイワハタザオ・ダイヤモンドソウ・カラマツバ・イヌヨモギは崖地植物群落を構成する種で、他の出現種からみて当該地にあってもよい種と考えられます。報告書リストではキリンソウ以外は記載されていませんが、この場所はこれら草本種の生育地と考えられるので、分布確認調査が必要です。

3-2 植物精査の必要性

当該調査地の調査年は1995年ですが、それ以後生物多様性保全の気運が高まり、レッドデータ種の拡大、生態系保護地域の拡大が相次いでいます。

札幌周辺の低地自然林は、温帯性植物の北限地として分布上注目すべき種が存在する地域です。いっぽう、当該地は寒地・高山植生が低地に現れるという特異な自然環境です。この場所は今まで自然状態が良く保たれている地域であり、希少種及び分布上特異な種の生育地でもあるので、少なくとも一年を通じた精査が必要です。

この場所が生物分布上特記される場所であることが判明した場合には、札幌市が道路着工を見合わせて生物精査をしたことが世界的に高く評価され、札幌市民の誇りとすべき自然環境として、後世に語り継がれる期待をこめて要望致します。

札土道第 94 号
平成 13 年 4 月 20 日

(社) 北海道自然保護協会
会長 俵 浩三 様

札幌市建設局
土木部長 藤林 義廣



貴団体より提出された「要望書」については、去る 3 月 27 日付けで受理いたしました。

市道砥山豊平川沿線の整備計画は平成 3 年度の図上検討から始まり、平成 6 年度より事業着手し八剣山トンネルを含む市道滝の沢駅近道線から砥山橋間 3.3Km を平成 11 年度に完成したところであります。観音沢地区（不動の滝橋区間）での事業着手にあたっては、平成 7 年度に環境調査を実施し翌平成 8 年度には一部補足調査を行った上で、自然保護団体の「札幌周辺の自然を考える会」・「連合北海道札幌地区連合」等及び用地地権者などとの協議の結果合意が得られたことから、昨年 8 月末より工事着手したところであります。

しかし、豊平川ウォッチャーズより昨年 10 月 19 日付けで工事中止要望書が提出され、自然保護の面から不動の滝橋を含む下流側の工事中止の申し入れがあったことから、工事を昨年 10 月 30 日以来中止しております。

今後の事業の進め方については、豊平川ウォッチャーズから指摘を受けた猛禽類の調査を昨年来より行っており、これらの結果を踏まえながら豊平川ウォッチャーズ及び地元などと話し合いを行ないながら進めたいと考えております。

以上

担当課：札幌市建設局土木部道路課
水上、吉田
Tel211-2617